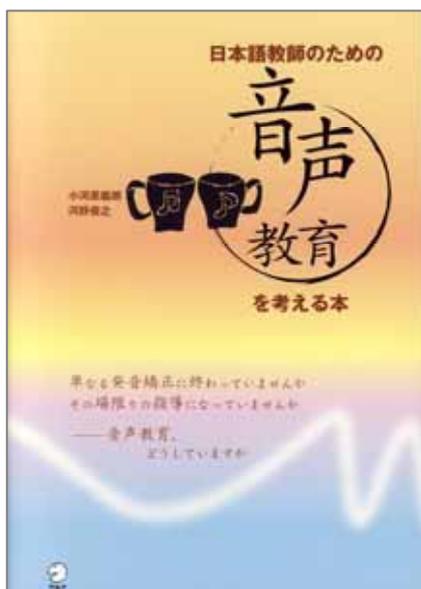


日本語の音声教育は、「何のために」「何を」「どのように」行うとよいだろうか？
『日本語教師のための音声教育を考える本』

< 2009年5月21日(木)発売 >

株式会社アルク(東京都杉並区永福 代表:平本 照麿、以下アルク)より、新刊『日本語教師のための音声教育を考える本』のご案内を申し上げます。



【本体】2,200 円(税込 2,310 円)
【ISBN】978-4-7574-1592-8
【サイズ】A5 判 【頁数】146 ページ

日本語教師が現場で対面する問題点と実践から考える
外国人への日本語音声教育

日本語教師なら一度は悩んだことがある音声教育。「教え方が分からない」「通じていればよい」など、現職の方からは幅広い意見が聞かれます。

本書は『月刊日本語』(アルク)で2004年4月号から2005年8月号まで連載していた「音声教育を考える」を基に、大幅に加筆修正しました。ある日本語教育機関に勤務する3人の日本語教師が、実際に現場で実践した授業や使った素材、3人で話し合った内容を紹介した上で、さまざまな切り口から音声教育について考えています。

連載当時から一貫して、音声教育の必要性を訴えると共に、その場限りではなく計画的に教えるために必要なことを丁寧に吟味しています。音声教育のコースデザインをゼロから考えることができる一冊です。

< 著者プロフィール >

小河原義朗(おがわら よしろう)

北海道大学留学生センター准教授。東北大学大学院文学研究科日本語教育専攻博士後期課程修了。博士(文学)。東北大学文学部助手、国立国語研究所日本語教育センター第一研究室研究員、独立行政法人国立国語研究所日本語教育部門第一領域研究員を経て、現職。

河野俊之(かわの としゆき)

横浜国立大学教育人間科学部准教授。名古屋大学大学院文学科日本語文化専攻博士後期課程中退。修士(学術)。同志社女子大学短期大学部研究助手、専任講師、同志社女子大学助教授を経て、現職。

< 目次 >

- 1章 音声教育について考える
- 2章 音声教育の目標
- 3章 学習者の意識を高める
- 4章 学習者の発話を観察する
- 5章 学習者の気持ちを考える
- 6章 自分の授業を観察する
- 7章 自分の音声教育観を知る
- 8章 何を教えるか
- 9章 計画的に教える・1
- 10章 計画的に教える・2
- 11章 教材を作る
- 12章 音声教育のリソース
- 13章 授業を変える
- 14章 学習者は何を考えているか
- 15章 学習者は何をしているか
- 16章 教室の内と外
- 17章 音声教育のコースデザイン
- 18章 これからの音声教育のために

見本書のご請求、本リリースについてのお問合せ、取材のお申込みは下記までご連絡ください。

株式会社アルク 広報部 (担当:河合)

〒168-8611 東京都杉並区永福 2-54-12 電話:03-3323-3521 FAX:03-3327-3971 e-mail: menet@alc.co.jp